

玄海原子力発電所の安全対策

福島第一原子力発電所において、電源が喪失し、冷却機能が失われて事故が進展した教訓を踏まえ、玄海原子力発電所では重大事故を防ぐため、5つの各段階に応じた多様な安全対策を実施しています。

1 異常の発生を防ぎます

地震や津波、竜巻などの大規模な自然災害に対する備えを強化しました。

2 異常の拡大を防ぎます

重大事故の防止に必要な電力を確保するため、多種多様な発電機を新たに配備しました。

3 燃料の損傷を防ぎます

燃料の冷却を確実に実施するため、多種多様なポンプを新たに配備しました。

4 格納容器の破損を防ぎます

格納容器の冷却手段の多様化、水素濃度の低減対策を行いました。

5 放射性物質の放出及び拡散を抑えます

放射性物質の放出、拡散を抑えるため、放水砲や水中カーテンを配備しました。

1 想定される最大の地震動（620ガルほか）を踏まえた耐震対策



1 最大風速 100m/秒の竜巻を想定。資機材が飛ばないようにコンテナに収納し、コンテナをコンクリートのおもりに固定



2 外部電源や非常用ディーゼル発電機が使用できない場合のバックアップ電源



3 4 水を供給する各種ポンプが使用できない場合に備えホンプ車を配備



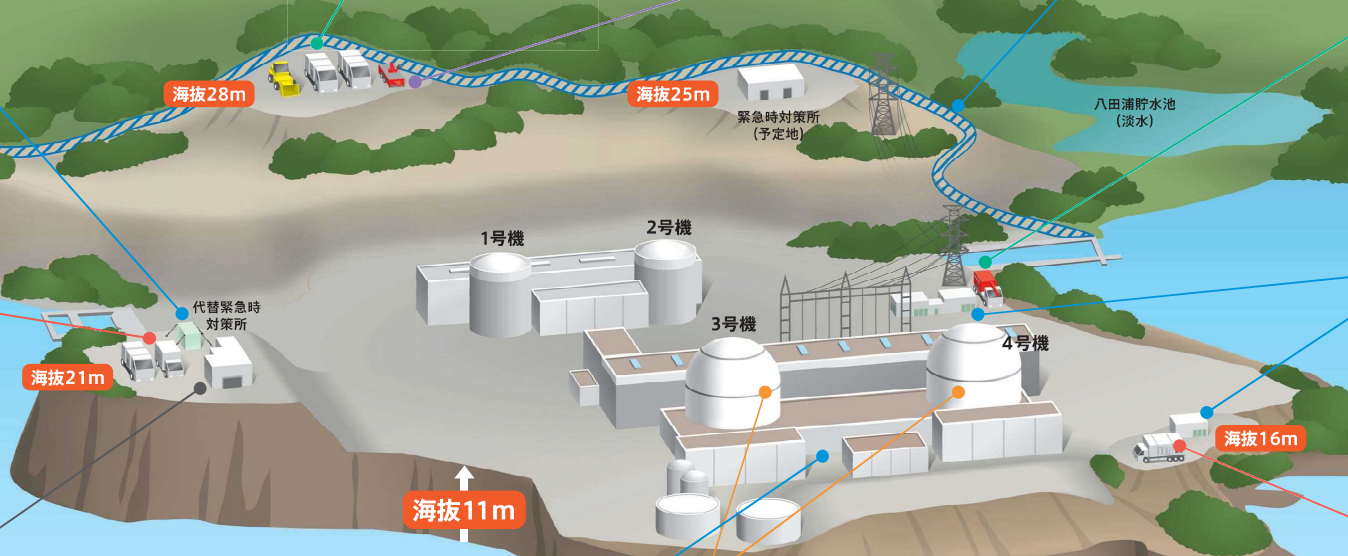
5 原子炉格納容器が破損した場合に、破損箇所に水を直接噴射し放射性物質の拡散を抑制する放水砲



1 発電所周辺の森林火災の延焼を防止するため防火帯を設置（幅 35m、全長 1.3 km）



3 4 水を供給する各種ポンプが使用できない場合に備えホンプ車を配備



1 竜巻から資機材を守る保管庫



2 外部電源や非常用ディーゼル発電機が使用できない場合のバックアップ電源

